

# がん疼痛や多汗症に対応

## 多科連携でQOL改善

中央区のNTT東日本札幌病院（吉岡成人院長・301床）ペインクリニックセンターは、一般的な痛みに対する治療のほか、がんによる疼痛の緩和、多汗症に対する手術治療なども実施。総合病院としてのスケールメリットを生かした多科連携で、患者のQOL改善に取り組んでいる。

同センターは、予約制法、理学療法などによりを基本として、1日当たり3人の医師が外来治療を担当。看護師3人、メデイカルアシスタント1人も配置されている。神経ブロック、薬物療

法も実施している。各種がんの痛みの治療

にも力を入れており、腫瘍がん、胃がんなどには、術後疼痛症候群等の痛みには、脊髄硬膜外腔に電極を挿入する脊髄刺激療

内臓神経ブロックで上腹部・背部痛の軽減・消失を図り、直腸がん術後の旧肛門部の痛みが続き、座位が難しい患者などにも神経ブロック治療を行っている。

また、原発性局所多汗症に対して、胸腔鏡下交感神経遮断術を実施している。手術の対象疾患の中でも患者数が多い手掌多汗症は、2009年に発表された東京医科歯科大による特発性局所多汗症の疫学調査によると、人口の4～5%に認められるともいわれており、職業選択に支障を来すケースも少なくない。手術希望者は年々増加してお

り、同病院の19年の手術件数は60件であった。

交感神経が遮断されれば、直後より手が温かくなり、手掌の発汗が減少、停止するが、続発症として背・腹部、下半身の発汗が増える代償性発汗がある。その程度には個人差があり、「気にならない」「想像以上」までさまざまだが、術前に入念な説明を行っている。

日常診療において、CT、MRI検査上の疑問点が生じた際、短時間で放射線科医の所見を得られ、新たにがん等の疾患が発見された場合に速やかに専門医に治療を依頼できるなど、総合病院でペインクリニックを行うメリットは多いと見られる。

かに専門医に治療を依頼できるなど、総合病院でペインクリニックを行うメリットは多いと見られる。

希望者は年々増加してお